

自己評価基準と項目の解説

自己評価基準

- 各項目について、経営者（必ずしも代表者だけでなく、取締役又は執行役員など経営の責任を担う人）お一人おひとりが、まずは資質項目ごとに自己評価して下さい。それぞれの項目の5～1までの評（配）点につきましては、以下の通りです。

- 5点・・・十二分にある
- 4点・・・相当ある
- 3点・・・ある
- 2点・・・やや足りない
- 1点・・・まったく足りない

- 上記の自己評価に当たっては、各項目の評価基準を踏まえて、下記のガイドを共通の配点の一つの目安として参考にして下さい。

各項目の評価基準を判定する共通の目安としては、

- 5点 本質を理解し、リーダーシップをもって行動している
- 3点 理解はしており、一般的な行動をしている
- 1点 必要性を感じていない、または関心がない。

と私たちは考えています。

裏面に、各項目の設定趣旨及び評価基準を簡単に付記しております。

1. 情報を公開し、公正な競争に率先して取り組む勇氣

設定趣旨

不都合な情報の隠ぺいや情報の改ざん、談合やカルテルが、企業の信頼を損なうことになっています。そうした中では、情報の公開に努め、公正な競争に臨むことが持続可能な経営の大前提です。

評価基準

例えば、3点は、「ネガティブ情報も含め、自ら率先してあらゆるステークホルダーと情報共有し、公正な競争に臨むよう担当社員に指示している。」

2. 100年先を見通した企業価値を設定し、その価値を浸透させる情熱と達成する戦略性

設定趣旨

近年、経営者には益々短期的な業績を求められています。そのために永続的な企業価値を追求する英知を見失いがちです。100年ぐらいを見通した情熱と戦略性が今問われています。

評価基準

例えば、3点は、「100年を見通したロングスパンで自社の使命と企業価値を想定している。」

3. 国内外の時代の潮流を洞察し、先取りする力

設定趣旨

内向きで独りよがりの認識では国内外の時代の潮流から遅れ、企業の経営力を損なうおそれがあります。いつの時代でも、潮流を賢明に洞察し、経営に先取りすることが経営者の資質として求められています。

評価基準

例えば、3点は、「自社の事業以外でも世間一般で取り上げられていることには関心をもち、役員会などでも話題にし、より良い社会を構築するために自社が率先してできることを明確にしている。」

4. 他社とも協働して、社会に対する責任を果たそうとする意志

設定趣旨

市場で競合している企業間にあっても、業界の一員として協働して環境問題や教育問題など社会の諸課題に積極的に対応する責任が問われています。

評価基準

例えば、3点は、「自社の利益だけでなく、公共の利益を追求するために、他社とも協働することを厭わない。」

5. 働くことの価値を認め、自社で働く全ての人々の働く意欲を高める力

設定趣旨

人間が働くのにふさわしい雇用の場を創設し、提供することが企業の重大な責務です。そして、企業の発展の基盤は人材です。グループを含め自社で働くすべての人が高い意欲をもって働ける環境をつくるのは経営者の重要な仕事です。

評価基準

例えば、3点は、「社員はじめ自社に関わりある人々の働く意欲を高めるために、適正な個人の人事評価制度や福利厚生制度を充実させ、多様な働き方に配慮するなど、充実した働き方ができるように配慮し、指示している。」

6. 地域社会との交流を大切にし、その伝統や文化を尊重する意思

設定趣旨

経営にとって、事業場のある地域社会は最重要な拠点です。人はもとより地域の伝統や文化に敬意と親和性を示すのは経営者としての重要な資質です。

評価基準

例えば、3点は、「地域のお祭りや環境保全活動などには、社員ともども積極的に参加し、地域の活性化に人・もの・金で協力している。」

7. 経済と環境を一体化しようとする意志

設定趣旨

経済と環境はトレード・オフの関係にあるとよく言われますが、健全な環境が損なわれると企業活動そのものが成り立たなくなります。環境の世紀にあって両者を一体化することが最も重要なことです。

評価基準

例えば、3点は、「自社の事業が環境と調和し、環境対応が自社の技術力、競争力、イメージの向上にもつながるよう、目標を設定している。」

8. 事業を大きくしすぎない勇気

設定趣旨

経営者の使命は事業規模を「大きくすること」にあるとよく言われてきましたが、資源や環境の制約が厳しくなり、持続可能な経営が求められる時代にあっては、必要以上に大きくしすぎないことが賢明な選択となります。

評価基準

例えば、3点は、「自社の事業規模が、事業特性、社会との調和、従業員の幸福という観点から適正なものかどうか常に点検している。」

9. 科学を理解し、経営に活かす力

設定趣旨

科学的知見を自分の都合で取捨選択するのではなく、人類のこれまでの蓄積を尊重するとともに、経営者の科学的理解の程度や適否が、企業の競争力と持続性に直結するものであることを自覚することが大切です。

評価基準

例えば、3点は、「環境問題に関する最先端の科学的知見の収集に努め、その知見を自社の経済活動に活かすように常に心がけている。」

10. 技術動向を常に把握し、経営の発展に繋げる力

設定趣旨

経営者は文系理系を問わず、企業経営に直接・間接的に関係する技術動向を把握しておくことは、企業の存続や発展の大前提です。

評価基準

例えば、3点は、「技術動向をウォッチし、必要な技術は何かを見定め、自社の経営に生かすように常に心がけている。」

11. 人知の及ばない大いなるものへの畏敬の念

設定趣旨

「技術は万能」など、人間中心的な考え方に陥りがちですが、人知にも限りがあることを自覚し謙虚な心を持ち続ける事は、経営者としてのみならず人としての基礎です。

評価基準

例えば、3点は、「人知が及ばないことも世の中にはあると認識し、謙虚な心を忘れないように心がけている。」

12. NPO を含むすべてのステークホルダーとコミュニケーションをとる力

設定趣旨

賢明で持続的な経営には、批判も含めあらゆる意見に耳を傾けることが重要です。あらゆる人とのコミュニケーションに積極的に取り組む必要があります。

評価基準

例えば、3点は、「社員や取引先以外の人との交流をいつも心掛け、なんらかの形でコミュニケーションの機会を設けている。」